

DAY1_From Arlington 2025.4.29



《出発式》

絶好の出発日和！JR 長岡京駅西口・バンビオ広場に集合して、出発式を行いました。式には、団員保護者の方々、そして教育委員会からも西村教育長・中島教育部長をはじめ、数多くの方々にお越しのうえ見送っていただき、アーリントン訪問への気持ちを新たにしました。

《成田空港まで》

今回は、成田空港まで初めて電車での移動(これまでは、伊丹空港から飛行機を乗り継いでいました)。在来線で京都駅まで行き、そこから東京の品川駅まで新幹線に乗って移動。たった12分の乗り継ぎ時間で成田空港までの特急列車「成田エクスプレス」に乗り込み、無事、成田空港に到着しました。成田空港までは、スケジュールを再確認したり、用意してきたお弁当を新幹線の中で食べたり、少しでも顔をのぞかせた富士山を見て感激したりしていました。

《ボストン・ローガン国際空港まで》

事前に市役所から宅急便で送ったスーツケースを成田空港で受け取り、朝、自宅から持って行った荷物の一部を、スーツケースにリパックしたりしました。対面ではなく、専用のシステムを使ったセルフチェックインと手荷物の預けに、少々手間取りましたが、皆、成田空港からボストン行きの飛行機に乗ることができました。

フライト時間は、およそ13時間。普段とは違う環境で、なかなか眠れません。夕食・朝食の合計 2 回出された機内食では、和食を選ぶことができました。日本食とはこれでしばらくお別れかもしれません。

長時間のフライトを終え、クタクタになりながら学習会でも勉強した入国審査へ。審査官はもちろん外国の方で、皆英語を使います。緊張感が漂うなかでしたが、皆勉強の成果を存分に発揮し、難なく入国審査をクリアしました！

預けた手荷物をピックアップし、空港ロビーに出ると、これまでスケジュールの調整をしてくださっていたアーリントン教育委員会のレベッカさんと、アーリントン高校の生徒 4 名がお出迎えをしてくれました。

《アーリントン高校到着・ホストファミリーとの対面》

ボストン・ローガン国際空港からスクールバスに乗り、ホストファミリーたちが待つアーリントン高校へ。移動に費やした長い一日も、ようやく終わりを迎えようとしています。

建物も、木々も、道路標識も、道行く人も、車のナンバーも、スクールバスの車窓に流れる景色は、普段目にするものがないものばかり。「本当にアーリントンに来たんだな」ということを肌身で感じます。

約 15 分の乗車を経て、アーリントン高校に到着！到着すると、ホストファミリーたちが待ち構えていてくれて、歓声が湧き上がりました。ホストファミリーたちは皆、事前にこちらから送っていた写真をプリントアウトして切り抜き手に持ち、迎え入れる団員の元へ駆け寄ってくれました。

明日からはいよいよ、交換留学の本番が始まります。

DAY2_From Arlington 2025.4.30



《集合》

ホストファミリーに送ってもらい、朝 8:30 頃にアーリントン高校の前に集合しました。ホームステイ先で初めての宿泊を終え、皆、「家がものすごく大きい」「地下室があった」「夕食は〇〇で、朝食は△△だった」「ペットがいた」等、驚いたことや新しい文化に触れたことを共有していました。また、消防本部行きのバスを待つ間、昨年の夏に長岡京市に訪問されたアーリントン高校の校長先生が偶然通りがかり、皆であいさつをすることができました。

《消防本部の見学》

アーリントンに 3 つある消防署のうちの、ヘッドオフィス(消防本部)へ訪問し、消防本部長に説明・建物内を案内して頂きました。案内していただいた消防本部の建物

は築 100 年を超えており、最近リノベーションされたとのことで、どこもかしこも真新しい状態でした。消防本部は 3 台の消防車と 1 台のはしご車を所有しており、隊員たちは 24 時間働いて 3 日間休む、という勤務体制となっているとのことです。長岡京市の消防署と同様、救急車による救急搬送も消防署がその役割を担っており、一年間で 5,400 回を超える連絡が消防本部に入るとのことです。「消化活動中、危険な場面に遭遇したことはありますか？」との質問に対しては、「一回だけ、大きな火事的时候屋根に登って屋根がくずれたことがある。」と教えてくださいました。また、他の隊員の方々には、放水の体験や、消防服の着用体験、また、はしご車への試乗を実施していただきました。これらの説明や案内は、もちろん全て英語です。皆、ネイティブが目の前で話す英語に一生懸命耳を傾けていました。

《警察署》

消防本部の訪問のあとは警察署を訪問しました。アーリントンでは、911 番が日本の 110 番と 119 番を両方兼ね合わせた電話番号となっており、火事も救急搬送も事件も、911 番にかかってきた全ての緊急連絡は 1 ヶ所で受けた後、それぞれの所管に割り振りがされるとのことでした。近隣の警察署はそれぞれ得意な特徴を持ち、警察署同士がその長所を活かし、お互いを助け合っているとのことです。警察署内では、警察犬を見せて頂いたり、射撃の練習場も見せていただきました。警察署は消防署とやや雰囲気が異なり、訪問した朝に逮捕された人が、同署内で一時収監されている様子がテレビモニターにリアルタイムで映し出されていたり、機密情報を多数取り扱うなど、常に緊張感が走っている様子でした。そのような中でも説明や案内は全て英語です。様々なシチュエーションで、様々な職業の方の英語を、皆、とても熱心に聞いていました。

《ハンバーガーショップで昼食》

警察署訪問の後は、お待ちかねの昼食。しかも本日のランチは、説明会でもインパクトのある写真を見ていた、イーグルスデリの巨大ハンバーガーと大量のポテトフライ。日本ではあまり見ないラインナップのドリンクバーも楽しみながら、コナー先生たちが取り分けてくれたハンバーガーとポテトフライを、お腹いっぱい堪能しました。

《クインシーマーケット訪問》

時間が余っていたこともあり予定を見直してもらい、ボストンにある歴史的建造物を利用した巨大フードホールであるクインシーマーケットを訪問しました。ここでは、食べ物屋さんだけでなく、周辺にたくさんのお土産屋さんがあるので、グループに分かれて散策をしました。事前の学習会では、ショッピングの時に使う英語も勉強

していたので、皆、気負うことなくショッピングを楽しんでいました。

明日はいよいよ、1つ目となる学校(オトソン・ミドルスクール)への訪問です。

DAY3_From Arlington 2025.5.1



《オトソン・ミドルスクールへの訪問》

昨日までの2日間と違い、やや気温の低い朝を迎えた本日は、11～13歳の生徒が通うオトソン・ミドルスクールが一番最初の訪問先です。ホーストファミリーに送ってもらい、待ち合わせ場所で待機していると、アーリントン教育委員会のホーマン教育長が来られ、皆で元気に挨拶をしました。校舎に入ると、ドーナツとコーヒーの朝ごはんを用意して頂いており、それを頂いている間に校長先生が来られ、スケジュールの説明をして頂きました。本日の内容は、セレモニーとシャドーイング、そしてスクールランチです。

《オトソン・ミドルスクール ～セレモニー～》

セレモニーは、広いカフェテリアで行われ、これまで練習をしてきた歌と踊りを披

露しました。話し合いのうえ、オトソン・ミドルスクールの生徒と長岡京市の訪問団が交互に披露し合うことに決まり、オトソン・ミドルスクールの生徒はオーケストラの演奏とコーラスを、長岡京市の訪問団は、これまで練習を重ねてきた歌とロックソーランを披露しました。オトソン・ミドルスクールの生徒による荘厳なオーケストラの演奏とコーラスで会場は静まり返り、長岡京市の訪問団による歌とロックソーランでは、歓声が湧き上がりました。

アーリントンへ来て初めて披露するにも関わらず、歌も振り付けもロックソーランも笑顔もとても上手いき、皆、自信がつけました。

《オトソン・ミドルスクール ～シャドーイング～》

長岡京市からの訪問団員 2 名につきオトソン・ミドルスクールの生徒 1 名が、授業を案内してくれました。授業は、オトソン・ミドルスクールで通常開催されているもの。数学や社会科、家庭科や音楽などの授業を、案内してくれたオトソン・ミドルスクールの生徒と一緒に受けました。アメリカの学校では、日本の学校と違い、授業ごとに生徒が教室を移動していきます。ドラマや映画で目にするような、縦長 2 段のスチールロッカーが両側に立ち並ぶ廊下を移動し、教室を渡り歩きました。アメリカの授業で使われる英語は、簡単なものばかりではありません。しかし、皆、案内をしてくれたオトソン・ミドルスクールの生徒に丁寧に教えてもらいながら、熱心に授業を受けていました。

《オトソン・ミドルスクール ～スクールランチ～》

お昼ご飯は、校内のカフェテリアでオトソン・ミドルスクールの生徒達に混じって列に並び、自分の好きなものを選んで食べました。食器やトレイは使い捨て、そしてローストビーフのサンドイッチやクランベリーのお菓子が並ぶなど、長岡京市での学校給食との違いも楽しみました。

《タウンマネージャー表敬訪問・タウンホール見学》

オトソン・ミドルスクール訪問の後は、タウンホールに行き、アーリントンのジム・タウンマネージャー（日本では町長に当たる職）にお会いしました。ジム・タウンマネージャーは、昨年、長岡京市を訪れられており、その時の感想等について、英語で質問をさせて頂きました。

ジム・タウンマネージャーがおられるタウンホールは、日本で税務課と呼ばれるような部署や、投票所を兼ねた歴史的なホール等を有する建造物で、建物の中や、たく

さんの花をつけた木々を有する庭園を、副タウンマネージャーに案内して頂きました。庭園では、長岡京市との姉妹都市盟約締結を記念したベンチを見ることができました。

《ロビンス図書館見学》

1892 年に設立されたロビンス図書館を、館長さんの案内により見学しました。32 万冊もの蔵書は、今もなお増え続けており、建物も増築を重ねているようです。e-book やオーディオブックのレンタルも可能なため、世界中どこにいてもそれらを借りることができるということです。また、会話をしてもいいフロアがあったり、絵画を貸し出しているなど、日本の図書館では珍しい機能もありました。館内には、姉妹都市の長岡京市からの寄贈である着物を展示頂いていました。

明日は 2 か所目の学校訪問となります。

DAY4_From Arlington 2025.5.2



《ダリン小学校訪問》

本日は、ダリン小学校への訪問です。このダリン小学校では、「日本の文化を伝えるクラスを団員達が持つ」という、今年度から始まる新たな取り組みの記念すべき初日となります。それ以外にも、昨日に引き続き、歌やロックソーランを披露するセレモニーも予定されていますが、事前学習での準備に余念がない団員達は、自信に満ち溢れており、それらが成功することは、本人達にとって始まる前から分かっていることです。あとはダリン小学校のみなさんに楽しんでもらうだけです。

《ダリン小学校 ～朝食～》

綺麗な芝生が生い茂る公営の公園に併設されたダリン小学校に、今日もホストファミリーに送ってもらいました。到着するや否や、大きな黄色い模造紙を繋げて手

作りされた横断幕で、ダリン小学校の児童の皆さんに熱烈な歓迎を受けました。待合の教室に案内していただくと、そこには朝食のベーグルとクリームチーズと飲み物が用意されており、皆、これから始まる取り組みに向けて、腹ごしらえをしました。

《ダリン小学校 ～セレモニー～》

日本の学校よりも天井が高く、青を基調とした音響板や吸音材が壁面に設置された体育館が、本日のセレモニーの舞台です。サッド校長先生の案内で体育館に入ると、そこにはダリン小学校の児童の皆さんや先生方が所狭しと団員達を心待ちにしてくださっていました。大きな歓迎の拍手で始まったこのセレモニーの最初を飾るのは、サッド校長先生のアコースティックギターによる弾き語りです。アーリントンの各学校を股にかけるミュージックディレクターの方々も、ピアノやコーラスで校長先生の歌を彩ります。校長先生による 2 曲の演奏のあとは、ダリン小学校の児童のコーラスグループによる合唱で、こちらも 2 曲を演奏頂きました。そしていよいよ、長岡京市の団員の番です。披露するのはもちろん、「ふるさと」「スイートキャロライン」「世界に一つだけの花」の合唱、そして、「ロックソーラン」です。どれも申し分のない出来で、披露を終えるたびに、大きな歓声が上がりました。そしてそのあと、予定にはなかった「This land is your land」を、校長先生とミュージックディレクターの方々による演奏のもと、長岡京市の団員達主導のうえ、ダリン小学校の児童の皆さんと一緒に合唱しました。

《ダリン小学校 ～日本の文化を伝えるクラス～》

いよいよ今年度から始まる新たな取り組みである、日本の文化を伝えるクラスです。初回である今回は、先生となる長岡京市の団員たちが、伝えるテーマごとに割り当てられた各教室で待ち構え、そこに授業を受けるダリン小学校の児童の皆さんが訪ねていく、というアメリカのスタイルで行います。受け持つ授業は、事前にたくさん準備をしてきた「折り紙」「けん玉」「習字」です。

時間となり、いよいよダリン小学校の 2nd grade である 8～9 歳程度の児童の皆さんが、3 箇所テーマに分かれた教室へやってきてくれました。

クラスでは、用意してきた英文やアイディアだけでは応対できない、突発的な応対を数多くすることが求められました。しかし、それらも含めた全てが、この取り組みのねらいです。ネイティブの小学生達の英語は手加減が全くありません。たくさん困って、たくさん応対して、そして、「もっと英語が上手になりたい」と思うことが、未来の自分をかたち作ることでしょう。そして、普段、学校の先生方がリアルタイムでどれだけすごいことをされているかも、改めて身に染みます。

しかし、さすが団員達。冒頭でも触れた通り、初めての取り組みを見事成し遂げました。授業を受けたダリン小学校の児童の皆さんも大喜びでした。

《ダリン小学校 ～昼食・スクールツアー～》

日本の文化を伝えるクラスを終えて待合の教室に戻ると、昼食用のピザを用意していました。クラスを振り返りながら昼食を済ませると、次はダリン小学校の児童の皆さんが案内してくださる、スクールツアーです。スクールツアーでは、約 10 名のダリン小学校の児童の皆さんにお世話になりました。通常教室や、理科室・体育館などの特別教室、そして校舎周辺の案内をして頂き、英語を用いての質問も多数させて頂きました。

《レキシントン・コンコードツアー》

訪問団の団長である AET (Assistant English Teacher) のコナー先生は、アメリカでは歴史の先生でもあります。そんなコナー先生に、マサチューセッツ州やアーリントン近郊のことなどの歴史について、わかりやすい英語で教えてもらうのが、このツアーです。ダリン小学校を後にして、レキシントンへ向かうと、そこにはアメリカの独立戦争を象徴するミニットマンの像がありました。コナー先生には、そのミニットマンという呼び名がどのような背景により付けられたのか、といった説明を皮切りに、アメリカの独立戦争について教えてもらいました。そして、英語でたくさん質問もしました。自分たちがこの瞬間に踏みしめているこのアメリカの地がどのような成り立ちで今に至るのか、その一端に触れることができました。

明日はホストファミリーデーです。今回のこの訪問も、中盤に差し掛かってきました。次の報告書の配信は、レッドソックスの試合観戦などが予定されている日曜日に行う予定です。

DAY6_From Arlington 2025.5.4



《フェンウェイパークツアー》

「ボストンといえば？」そのように尋ねられると、様々な答えが頭の中に浮かぶことかと思いますが、きっとその中でも上位に来るのが、メジャーリーグベースボールのボストンレッドソックスではないでしょうか。本日はレッドソックスの本拠地である、フェンウェイパーク球場のツアーと、試合観戦の日です。朝の 10 時に、今では待合場所でおなじみとなったアーリントン高校前で、球場行きのバスに乗り込みました。前日はホストファミリーデー。バスの中では、ホストファミリーとのかけがえのない時間をどのように過ごしたのかを、お互い共有していました。

フェンウェイパーク球場に到着すると、アーリントン教育委員会のホームマン教育長が来られていました。そして、なんと、ボストンレッドソックスの帽子を下さいました。多くの団員達がその日一日、頂いた帽子をかぶって、ボストンレッドソックスを応援していました。

ツアーでは、日本出身のガイドの方に舞台裏等を見せて頂きました。普段は降りることができない、実際にメジャーリーガーが試合をするフィールドまで降りることもできました。昼からはいよいよ、試合観戦です。

《ボストンレッドソックス試合観戦》

第一イニング・第一打席・第一球目に、今日の対戦相手であるツインズにホームランを打たれるなど、目の離せない試合が繰り広げられました。この世界でトップレベルの方々の身体の大きさや身のこなしなど、一挙手一投足目が離せません。試合を観ながら、ホットドッグを食べたり、試合の途中では、他の観客と一緒に、事前学習会で振り付けまで覚えたスイートキャロラインの大合唱をしました。会場には、一部ホストファミリーも来られていたので、ホストファミリーと一緒に観戦する団員もいました。

海外の方と英語で話す時には、相手の文化を知っていることはとても有益です。英語を話すことができたとしても、会話が成り立つかはまた別の話です。本日の野球観戦では、英語だけでなく、広くアメリカの社会にも埋め込まれている文化にも触れることができました。

明日からは、再び学校への訪問が始まると同時に、早くも、滞在最終週となりました。

DAY7_From Arlington 2025.5.5



《ギブス・スクール》

本日は、アーリントンでグレード 6(およそ 12 歳)の子どもだけを受け入れており、それに特化しているギブス・スクールが最初の行き先です。これまで何とか運よく逃れられていた雨でしたが、今日は朝からしっかりと降っていました。そして、昨日まで半袖で過ごせるほど暖かかったにも関わらず、今日は一転して 10 度程度が続く気温の低い一日。ホストファミリーが送迎してくれる有り難さが身に沁みます。ピエール校長お出迎えのもと、ギブス・スクールの校内へ入り、早速シャドーイングが開始されました。長岡京市からの団員 1 名につき、ギブスの生徒 1 名がついてくれ、一緒に通常授業を受けました。科目は数学や科学や英語(国語)やフランス語、そして体育の授業等、多岐に渡ります。第二言語の授業がフランス語というのも、

日本人にとっては意外です。体育館も、校舎の 2 階にあります。授業は 1 時間目・2 時間目・・という分かれ方でなく、青・紫・赤・・・など色で分かれています。様々な「意外」に出会うことも、もちろんこのアーリントンプログラムでの学びの一つです。今日も様々な「意外」に触れられて、心なしか団員たちも一回り大きくなったように見えました。

スクールランチをいただき、昼からは体育館でウェルカムセレモニーです。皆、ギブス・スクールの皆さんに披露するロックソーランのはっぴを着たり、どのような順番で発表するかを確認したりと、準備に余念がありません。体育館で準備をしていると、続々とギブス・スクールの生徒が入ってきました。そして、最終的にその場に來たのは、ほぼ全校生徒に当たる約 500 名。これまでで一度に一番多くの人たちに披露をする場となりました。ギブス・スクールの生徒の皆さんは、私たち団員と年齢が近いからか、驚くほどフレンドリーです。こちら団員が一人一人自己紹介をした時でも、スーパースターが挨拶をしたかのごとくの歓声。フェンウェイパークでも歌ったスイート・キャロラインを披露した際には、ギブス・スクールの生徒も大盛り上がり。最終的には、3 曲の歌、ロックソーラン、5 つのプロモーション動画を用いて長岡京市を紹介するプレゼンテーションを行いました。ギブス・スクールの生徒も私たち団員に、ブラスバンドとコーラスを披露して下さいました。

《ハーバード大学見学》

ギブス・スクールの後は、ハーバード大学の見学。ここでもまたもやコナー先生の登場です。およそ 2,000 万冊の蔵書で、様々な面で世界で有数の規模である私設の図書館についてのお勉強が、今回のコナー先生のメインのクラスです。この図書館には、世界で初めて活版技術を用いて印刷された聖書が所蔵されているとのことで、ピューリタンがイギリスから移住し、神学から始まった大学であることを物語っているように感じられました。また、地上 3 階・地下 8 階建の図書館の本棚の総長はなんとおよそ 92km で、図書館に入る時には、「ランタンとコンパスとサンドイッチを持っていけ」と冗談で言われるほど大きくて深い図書館です。大統領をはじめ、様々な功績を残す人物を輩出し続けているハーバード大学。一面の芝生と、野生のリスと七面鳥がいるこのキャンパスで、近い将来、団員のうちの何人かが、図書館で借りた本を片手に物思いに耽っているかもしれません。

《タウンミーティングの傍聴》

今回の滞在でいつも私たちを案内してくださっているレベッカさんが予約してくださった、ハーバード大学近くのレストランで、ピザやシーザーサラダを頂いてか

ら、タウンミーティングの傍聴へ向かいました。タウンミーティングとは、長岡京市でいうところの「市議会定例会」にあたります。先日タウンマネージャーのジムさんにお会いした建物の中にある歴史的建造物である議場がその舞台です。繊細な彫刻が施され、神聖に感じられる建物であることも相まってか、多くの方々が席が埋まっている議場には、厳粛な空気が流れています。そんな空間の 2 階席で傍聴をしていると、姉妹都市である長岡京市のことが紹介され、それに続いて今回私たちがアーリントンを訪問していること、そして私たち自身についても紹介いただきました。多くの方々が 1 階席から見上げるなか、2 階のバルコニーから皆で立ち上がり、手を降って挨拶をし、この瞬間、私たちが長岡京市を代表していることを改めて実感しました。そして、それぞれの土地で、様々な文化や環境、状況のなか、多くの人がつながり合いながら生活を送っていることを強く感じました。

帰国に係る移動日を除くと、残るは 2 日間。最後まで様々なことを学び続けていきたいです。

DAY8_From Arlington 2025.5.6



《アーリントン高校訪問》

今日と活動最終日の明日はアーリントン高校への訪問です。これまで、ホストファミリーの送迎では何度もお世話になってきましたが、建物内に入るのは本日が初めてです。今日も朝からしっかりと雨が降っています。昨日ほどではないですが、気温もやや低め。ただし、アメリカの建物の中は、暖房がついている時は、軽装でも快適に過ごせるよう空調管理がされているので、全く問題はありません。集合時間にアーリントン高校へ行くと、以前、長岡京市の教育委員会で、コナー先生やヘンリー先生と同じように、AET として主に長岡京市の中学校で英語の授業のサポートをしていたジャスティン先生が、とても優しい笑顔で元気に出迎えて下さいました。

昨年度、長岡京市を訪問されたジャンガー校長先生も一緒です。アーリントン高校はつい最近、改築工事が概ね完了したばかり。どこもかしこもピカピカの明るい色調で、デザインも近代的です。ジャスティン先生の案内で待合室に通してもらくと、他の学校と同じく、朝食を用意頂いていました。内容は、アメリカの朝食ならではのパンケーキ。皆、美味しいオレンジジュース等と一緒にいただきました。朝食の後、ジャスティン先生の説明を皮切りに、今日一日のプログラムが始まります。まずは、スクールツアー（学校案内）。アーリントン高校の生徒の方々が、団員たちを案内して下さいました。案内してくれたアーリントン高校の生徒の中には、昨年夏に、長岡京市を訪問した生徒も何人かいます。皆優しく団員たちを案内して下さいました。それが終わると、次は、ショートセレモニー。大きなメインセレモニーは最終日の明日に大切にとって頂いているようで、今回は、ジャンガー校長先生を筆頭に、十数人の生徒の方々と挨拶を兼ねた、短めのセレモニーが執り行われました。内容は、プレゼント交換と、団員たちが「ふるさと」と「ロックソーラン」を披露しました。その次は、生徒の皆さんに、英語アクティビティーをしていただきました。いくつかの小グループに分かれて、手取り足取り、色とりどりの紙とペンを用いて、やさしく英語を教えて下さいました。カフェテリアでランチを頂いた後は、トレーニングルームで体育の授業。生徒の皆さんに、こちらを手取り足取り教えていただきながら、エクササイズマシンや、ウエイトトレーニングマシン等で、軽く汗を流しました。その後は、この七月に長岡京市を訪問する予定の生徒の皆さんとの顔合わせの場をセッティング頂いていました。過去に長岡京市を訪問された先生方も、何人も来てくださり、団員たちとお互いを知るための会話を楽しみました。ジャスティン先生は、さすが、以前日本の中学校で指導をされていただけあって、ものすごく上手に分かりやすく私たちに説明をして下さいました。その説明も相まって、深く理解のできた素晴らしい訪問となりました。明日もアーリントン高校への訪問が楽しみです。

《ウィルソンファーム訪問ツアー》

アーリントン高校訪問の後は、スクールバスに乗り込み、少し離れたウィルソンファームへの訪問です。到着すると、ウィルソンファームのヘザーさんが出迎えて下さいました。ウィルソンファームは、1884 年にアイルランドから移り住んだウィルソン家により開園されたようで、訪問したここ数日が、春の訪れと共に賑わい始める時期だったようです。アーリントンの春は、ウィルソンファームのアスパラガスの収穫と 4 月の長雨が、その訪れを知らせてくれるようです。なお、今年は冬の寒さが続く日が長く、やや遅めの春の訪れだったようです。この農場では、主に花や植物、野菜の苗を栽培・輸入・販売しており、大きな農園と、作業場、そして店舗が構えられています。花はヨーロッパ、アメリカ国内の様々な州、コスタリカ等の熱帯の地域

等、様々な地域から集められます。輸入・輸送の際は、徹底した温度管理が必要なため、花を輸送する専用の飛行機やトラックが使用されるようです。また、日本からも時折、花が少量入荷されることがあるようですが、とても希少で、非常に高価な品となるとのことです。農場や店舗のみならず、作業場・バックヤードまで案内してくださったヘザーさんは、毎年長岡京市からの団員を案内してくださっており、いつもこの時期を楽しみにしてくださっているとのこと。ヘザーさんは、心から植物が好きな様子で、ものすごく分かりやすい英語で、丁寧に、ゆっくりと、そして大きな声で説明してくださるので、本当に良い英語の勉強となりました。

明日はいよいよ移動日を除いた、活動の最終日です。ホストファミリーも参加するフェアウェル(さよなら)パーティーも開催して頂く予定なので、明日も最高の一日になったらと思います。

DAY9_From Arlington 2025.5.7



《アーリントン高校訪問(2日目)》

雨上がりの朝日が、アーリントン高校の正面玄関の大きな窓ガラスを照らしています。本日が、活動最終日です。ふとした瞬間に、「このシーンを見るのも、これが最後かもしれない」と感じる団員もいるのではないのでしょうか。どの瞬間を切り取っても、何事にも変えがたい思い出です。

正面玄関に着くと、ジャスティン先生が出迎えてくださり、息つく暇もなく、シャドーイングのためにアーリントン高校の生徒が団員を連れて行ってくれました。1・2時間目は、シャドーイング。生物や科学の授業等を一緒に受けさせていただきました。そして、ランチタイムを挟みましたが、3・4・5時間目は、連続で団員たちが、アーリントン高校の生徒のためにクラスを開催しました。内容は、主に歌とロックソーラン

の披露、日本語教室にロックソーラン教室、そして、プロモーション動画を用いた長岡京市の紹介です。時間ごとに高校生は入れ替わります。多い時で高校生の数はおおよそ40名。毎時間微修正をかけながら、基本的に同じ内容を合計3時間・3回行いました。見上げるような大きな高校生たちも数多くいる中、小グループに分かれて、皆、余裕の笑顔で教えてあげました。教えてあげた高校生の中には、この夏に長岡京市を訪れる生徒もいて、目には見えない絆のようなものが強くなっていることを感じます。高校生も、やさしく熱心に団員たちの説明を聞いてくれました。最終日を迎え、皆、英語も急に上達してきたように感じます。また、日本人以外の人たちに接することにも慣れてきたように見えます。コミュニケーションを上手にとるということにおいて、言語を運用することだけがその役割を果たすのではないことを肌で感じることはできたのではないのでしょうか。

《アーリントンケーブルテレビ局訪問》

長岡京市の団員が毎年訪問している、ローカルテレビ局です。昨日訪問したウィルソンファームのヘザーさんと同様、2人のスタッフの方が、心待ちにして迎え入れて下さいました。規模はそれほど大きくはないようですが、実際にテレビに流す番組を制作している会社なので、カメラやミキサー等の機器・機材やスタジオは、全てプロフェッショナル仕様。今回の訪問では、どのようにニュース番組を制作しているのかを、実際にカメラ等の設備を貸していただき、撮影しながら体験させてもらいました。撮影した内容は、ケーブルテレビ局の方々が編集の上、今後テレビやインターネット上で放送いただくとのことです。

《フェアウェルパーティー》

テレビ局から帰ってくるやいなや、服を着替え、フェアウェルパーティーが行われるカフェテリアへ向かいます。

会場にはホストファミリーが来てくださっています。机には、ビュッフェスタイルで、ローストチキンや、ローストハムと野菜のサンドイッチ、お寿司、ピザ等を置いて頂いています。フォークやナイフと一緒に、割り箸も置いて頂いており、温かい心遣いを感じます。パーティーのオープニングを飾るのは、アーリントン行政とスクールコミティーの方々、そして教育委員会のメンバーによる挨拶です。実際には、アーリントン側はホームマン教育長、アーリントン高校のジャンガー校長先生、スクールコミティーのポールさん、ジムタウンマネージャー、長岡京市側は、学校教育課のトモさんがしました。

挨拶以外にも、スピーチが執り行われました。前に出てお話になるのは、今回、こ

の滞在のスケジュールを管理したり、一緒に散策をしてくださったレベッカさん、そして、何組かのホストファミリーと、過去に長岡京市を訪れられたアーリントン高校の生徒の方です。

お互いに披露し合うものもあります。長岡京市側は、「ふるさと」の歌のプレゼントと、「ロックソーラン」の踊りの披露です。アーリントン高校の生徒の皆さんは、ジャズバンドによるジャズの演奏を披露して下さいました。

アーリントン高校の新しい建物に、色とりどりの浴衣の柄と皆の笑顔がとてもよく映えました。

この滞在の期間、団員たちは毎日日記をつけていました。その日記の中には、様々な「気づき」が書かれています。これまで当たり前だと思っていたこと、そして、日本では見られないようなこと。出会いや思い出だけでなく、様々な「気づき」も、この滞在期間を通して団員たちをより大きくしたことかと思えます。その、より大きくなった団員たちは、きっと、これから自身にとって素晴らしい未来を思い描き、それに向かって進んでいくことかと思っています。

いよいよ明日は帰国の日。

現場からは以上です。